

神楽通信

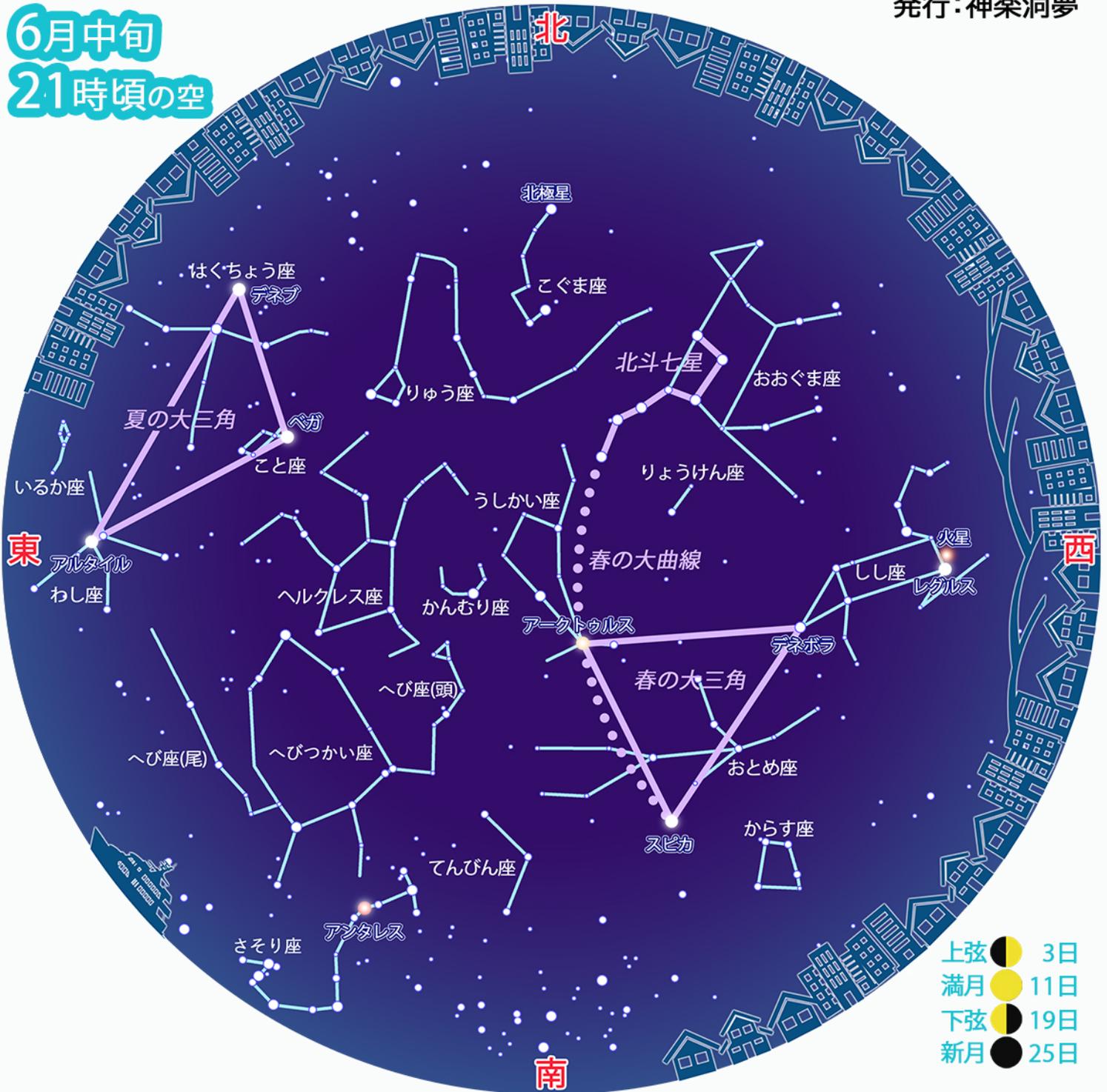
No.112

2025年

6月号

発行:神楽洞夢

6月中旬
21時頃の空



6月は21日が夏至なので、1年のうちで最も日暮れが遅く、日の出の早い状態がしばらく続くこととなります。また10日が入梅のため、晴れ間の少ない日が7月下旬の梅雨明けごろまで続きます。わずかな晴れ間に星空を見上げると、春と夏の星たちが輝きます。西の低空に見える火星と南東の空に瞬くさそり座の1等星であるアンタレスの赤い色合いを比べることもできます。

似た等級と異なる色の1等星

6月の星空で目立つ1等星が二つあります。

ひとつは、南の空高くに輝く、うしかい座のアークトゥルス。

日本で見ることのできる星のうち、3番目に明るい星で、麦の刈入れの時期に空の高いところに見え、輝きも実りを迎えた麦のような色をしていることから「麦星」と呼ばれています。アークトゥルスの実視等級は -0.04 等です。

もうひとつは、東の低空に輝く、こと座のベガ。アークトゥルスに次ぐ明るさを誇ります。

「夏の大三角」の一角をなし、七夕伝説の「織姫星」としても親しまれています。

ベガの実視等級は 0.03 等です。

どちらも明るい1等星とされていますが、正確には1等級よりも明るい0等級に分類されます。

似た明るさのアークトゥルスとベガですが、実際の星空で観察してみると、輝きの色が違って見えます。

アークトゥルスやベガのような恒星と呼ばれる星の色の違いは、星の表面温度が関係しており、表面温度が高い順に、青→白→黄→橙→赤と色が異なります。

アークトゥルスの表面温度はおよそ 4000 度で、太陽より低く、黄色から明るいオレンジ色に輝いて見えます。

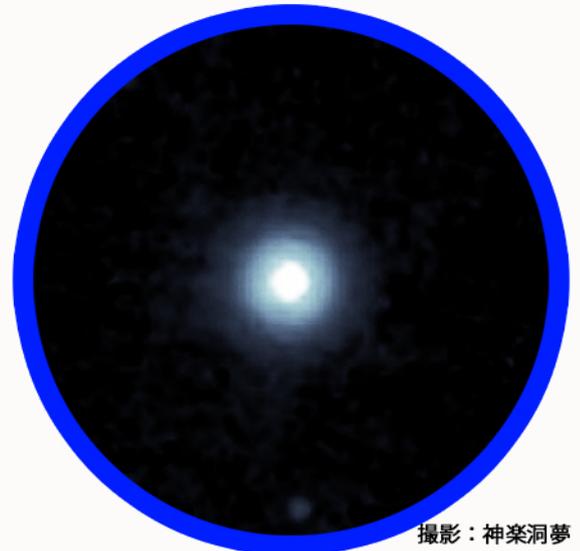
一方、ベガの表面温度は太陽よりはるかに高い 10000 度ほどで、白く輝いています。

物体は表面温度が高いほど明るく光りますが、表面温度が低いアークトゥルスが、ベガと同じように明るく輝いて見えるのは、アークトゥルスが非常に大きな「赤色巨星」と呼ばれる星だからです。



撮影：神楽洞夢

明るいオレンジ色に輝くアークトゥルス



撮影：神楽洞夢

白く輝くベガ

